

ほづみ やつか
穂積 八東 (1860~1912)



憲法学者。宇和島城下(現、宇和島市)出身。東京大学文学部政治学科卒業の翌年からドイツに留学し、ベルリン大学などで国法学を学んだ。帰国後、八東は、帝国大学(現、東京大学)教授となり、憲法学や国法学、行政学の講座を担当するとともに、枢密院書記官、法典調査会査定委員、貴族院議員、宮中顧問官などを歴任した。また、大日本帝国憲法の解釈と普及に力を尽くすとともに、憲法に附属する法典の原案を作成し、各種法典の編集にも尽力した。

八東の学説は、天皇の主権は絶対であると説く憲法理論、また、天皇は民族の家長であるとする家族国家論などからなり、その説は当時、国民の教育をする上で最も正しい学説とされた。これらの学説の立場から、明治22(1889)年、日本政府がフランスから招いていた法学者ボアソナードが考えた民法の原案が示

されると「民法出テ、忠孝亡フ」の論文を発表し、民法施行断行派と民法典論争をした。民法学者の穂積陳重は実兄である。

略歴

安政7(1860)年2月28日	宇和島城下の中ノ町に生まれる。
明治6(1873)年	上京して共立学校(現、開成学園)に入る。
明治16(1883)年	東京大学文学部政治学科を卒業
明治17(1884)年	ドイツに留学してベルリン大学などで国法学を研究
明治21(1888)年	帰国して帝国大学教授となり、憲法講座を担当
明治24(1891)年4月	「民法出テ、忠孝亡フ」の論文を発表して、梅謙次郎らと民法典論争を展開
明治32(1899)年	貴族院議員に勅選される。
明治43(1910)年	病気のため大学を休んだ際に「憲法提要」を執筆
大正元(1912)年10月5日	53歳で永眠

(写真提供：宇和島市立中央図書館)

〈関連図書〉

- ・愛媛県百科大事典編集委員会『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・長尾龍一『穂積八東集』 信山社 2001年

〈ゆかりのある場所〉…(P269, 22)